

## ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第16回〕

## 弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

## TSUKEMENの新たな挑戦

振り返ると、常に変化を求めています。それが人の目に見えない事でもとにかく、自分の中で何かを変化させること。

「失敗を恐れずにチャレンジしろ」という言葉をよく耳にしますが、この10年で気がついた事があります。

それは、失敗を恐れて挑戦しないことよりも、目の前の事に追われ、時間に忙殺され、知らず知らずのうちに機会を逸している事の方が多いということです。

最近ではチャレンジの数、量こそ成功の一番の近道だと思っていて「自分の好奇心を見殺しにしない」が一つの信条になっています。

TSUKEMENはいままで10年間、3人だけの音でステージを作ってきましたが、昨年末初めてバンドを入れたスタイルにチャレンジしました。少しでもプラスになると思えばアクセルを全開で踏み込んでいきたい僕としては、最高の挑戦になりました。

しかし、新しいチャレンジにはリスクや葛藤がつきものです。

例えば、曲を作るとき「ファンのみんなにもっともっと喜んでほしい」というあまり、「ウケそうな曲」を狙いにいってしまいそうになる事があります。

そんな時はステイプ・ジョブズが語った次の言葉を思い出します。

「人は形を見せられるまで、自分が何を欲しいかわからない、何が欲しいかを聞いてそれを与えるだけではないけない」

お客さんの視線に立つことと、お客さんに媚びることは違う、と思いきさせてくれます。

今回のバンドの挑戦で、熱狂的な反応も頂いていますし、反対に「バンドサウンドはあまり好きではない」という声も届いています。

正直、賛否両論が出るとちょっと嬉しくなってる自分もいます。やっている事がトンガっている証拠でもあるからです。

「生音とバンドの住み分けがうまくいけば、もっと両方の長所を生かせる舞台ができるな」とこれも一つの発見でした。

うまくいっている人は常に自分自身をアップデートしている印象があります。ミニマリストは服を断捨離する時に、ハンガーにかかった服を見て「今の服がお店にあるとして、改めてこの服を買うか？」という事を自分に問うそうです。

それを最近はこの置き換えてモチベーションを上げています。

「お前が作った音楽を今 iTunes Storeで試聴した時に、お金を出してまで猛烈に欲しいか？」



## profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。  
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。  
2010年キングレコードからメジャーデビュー。  
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。